

ROLFRAINER

ロルフ・レイナー履物

始めの一步から

人間の足というものは、その人の一生を負っているものである。人は、一生の間十六万キロメートル（地球四周分）も歩いている。この膨大な距離を安全に気持ちよく果たすために、二千年前から、靴という道連れが欠かせないものとなった。われわれの足の第二の皮膚である靴が、硬すぎず柔らかすぎず、パーフェクトにフィットすることが、毎日の歩行に欠かせないことなのだ。

靴職人の技

靴を作るためには、三百以上もの工程がある。最も肝心なものが、木をその人の足の形どおりに作った木型である。足の指の均整のとれかた、甲の高さ、足の幅、丸み、すべて正確に寸法を取らなければならない。そして革を型に合うように各部分（甲より上、内部の二重層、つま先、くるぶし）それぞれを別々に裁断し、縫い合わせ、最後に靴底とかかとと縫合する。1923年、ライナーの祖父によって、手作りの靴職人の店、ライナー靴店が始められた。そして今日まで、伝統の手作り職人の気質と技術が祖父、父そして息子とロルフ・ライナー親子3代にわたって受け継がれてきている。

時代とともに

また、最近では、手作りの手法を守りながらも、これに併せて最新技術を取り入れてきてもいる。コルク材と特別な革により、ショックがやわらげられるようになった。1998年より、足の寸法をより正確に取るため、スキャナーを使用している。足の負荷分析のテクニックや、靴のフォームの新しい学術的知識など、常に最先端の情報をキャッチすることも欠かせない。

木型が靴を作る

靴のデザインは、はく人の体全体（体系、動き）に、そぐうものでなければならない。地質や気候に適し、かつ機能的で、材質の正しいものでなければならない。寒さや水から足を守るためだけでなく、足の動きを高め、皮膚呼吸を促進させることができるのが、靴の理想である。